

# 防衛大学校本科第49期、理工学研究科前期課程第40期、理工学研究科後期課程第1期及び総合安全保障研究科第5期学生入校式における防衛大学校長式辞

(平成13年4月5日)

本日、防衛大学校本科第49期学生425名、理工学研究科前期課程第40期学生66名、同後期課程第1期学生6名及び総合安全保障研究科第5期学生17名の諸君の入校に当たり、教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

諸君は本校に入校される21世紀最初の学生です。この入校式を挙げるに当たり、石破防衛庁副長官<sup>注(1)</sup>をはじめ、多数の来賓のご臨席を賜りましたことに厚くお礼を申し上げます。また全国各地からご参列下さいましたご両親、ご家族の皆様に対しま



第7学校長代 西原 正

しても、お礼を申し上げるとともに、お子様の栄えあるご入校を衷心よりお祝い申し上げます。防衛大学校は、昭和28年4月に第1期生400名が入校して以来、既に1万9千人余りの卒業生を送り出してきました。これらの先輩は、我が国の平和と安全を守り、そして国連等の国際平和維持活動に身を挺して参加し、あるいはまた洪水や地震などの災害における救援活動に従事して、国内的にも国際的にも高い評価を得るに至っています。

本年度からは、4つの異なる課程の入校生を歓迎することになりましたので、順にお祝いと要望を述べたいと思います。

まず本科入校の新生諸君、諸君は多くの受験生の中から難関を突破し、防衛大学校に入校されました。我が国において、若い世代が自衛隊や防衛問題について高い関心を持たない傾向にある時、諸君が将来国防の任に就く自衛隊幹部を養成するこの防衛大学校に入る決意をされたことに、深く敬意を表したいと思います。防衛大学校は一般大学と同じく、文部科学省の大学設置基準に基づく大学教育を行っています。これは一社会人として、また将来自衛隊という組織の中で部下を率い、また日本の防衛、国際平和の在り方などを考える上で、必要な教育です。そのため本校では、優秀な教官の下に少人数による教育に力を入れております。学生諸君には、自然科学や人文社会科学の分野に関する基礎知識並びに専門的知識を修得できるように、大いに勉学に励んでもらいたい

---

注(1) 石破 茂

と思います。

今の学生は余り読書をしないといわれていますが、諸君には読書をする習慣をつけ、それを基礎に広い視野、科学的思考力を身に付けてくれることを要望します。

しかし同時に諸君には、人の上立って組織を動かしていく意志と能力と体力を持つことが必要です。防衛大学校では、勉学と並んで、訓練と体育を重要視しています。口ではいかに立派なことを言っても、体力が伴わなければ、部下はついてきません。また強靱な身体・精神力があってこそが、多くの苦難を克服するのに役立ちます。

また本校では、諸君全員が学生舎で集団生活をするようになりますが、学生舎生活や校友会活動を通じて、人をまとめ、集団を動かしていく能力を涵養することが出来ます。諸君は、まず指導教官の指導の下、素直な気持ちで集団生活に飛び込み、上級生の生活姿勢を見習い、その雰囲気馴染み、出来るだけ早く集団生活に慣れることを期待します。諸君の中には、最初は不安と戸惑いを覚えるものもいるかもしれませんが、先輩は、皆これを経験し、かつ克服してきたのです。諸君にそれが出来ない筈はありません。

次に諸君は、一般の大学生とは法的身分が異なることを明確に認識すべきです。諸君は防大生となることで、国家公務員になりました。手当のほか、居住、被服など生活に必要なものが国から与えられますが、同時に、諸君は幹部自衛官になるための教育と訓練を受ける義務を負うことになります。したがって諸君には、国家公務員としての責任ある行動をとってくださることを望みます。そして、よき社会人、すなわち本校の理念である「真の紳士・淑女にして真の武人」となるべく、積極的な自己修練に努めてくださることを強く期待します。規律正しさと高い道徳心と強い正義感を培うことによって、学内外から尊敬される若人になってほしいと思います。

次に、理工学研究科前期課程に入校された学生諸君には、このたび、特に選抜されて、本校の研究科において、先端科学技術に関する高度の専門的な知識並びに研究方法の修得に専念する機会を持たれることを、心からお慶び申し上げます。

科学技術の向上は、我が国が必要とする防衛力の近代化の根幹を成すものです。諸君には、単に科学技術の知識だけではなく、その技術が軍備管理や信頼醸成の強化などを通して、国際安全保障環境の改善に役立つ方策も思索して下さることを期待します。

新設された理工学研究科後期課程は、本年度第1期生を迎えました。このたび選ばれて、いわゆる博士課程に入られた諸君をここに迎えることが出来ましたことを心強く思います。先進国の軍隊においては、博士号を持つ将校の数が増えています。世界の各国は高度の科学技術を用いて防衛能力の質的強化を図ることに懸命に努めています。2年間の前期課程の諸君とともに、この3年間の後期課程の学生諸君による研究成果に強い期待を寄せています。

総合安全保障研究科に入校された学生諸君には、国内外の安全保障に関して多角的か

つ学際的に研究する方法を修得される決意をされたことを心から歓迎します。異なる職業的背景をもつ諸君が、2年間の切磋琢磨によって、安全保障への総合的な理解を深めてくれることを要望します。そして将来は日本の安全保障政策や国際安全保障への協力の在り方などに寄与されることを大いに期待します。

最後になりましたが、留学生諸君に一言歓迎の言葉を申し上げます。本年度は、本科及び研究科に、インドネシア共和国から3名、フィリピン共和国から1名、大韓民国から5名、ルーマニア社会主義共和国から2名、タイ王国から9名、計20名を新たに迎えました。また後日、モンゴル人民共和国とヴェトナム社会主義共和国からも留学生をそれぞれ2名迎えることになっています。留学生の入校を心より歓迎いたします。諸君はしばし祖国を離れ、日本での勉学、訓練、研究などに取り組むこととなりますが、その間、日本語を修得し、日本の文化や習慣を理解するのに苦勞されることが多いことと想像します。しかしそうした経験を通して、日本人との友情を培い、人間的にたくましく成長し、そして祖国の防衛に寄与できる貴重な国際人となられることを期待します。

一方、日本人学生は留学生への温かい思いやりを通して、自らが成長し、国際的視野を持つ人間になって欲しいと思います。

はるかに富士を仰ぎ、眼下に紺碧の大海原を見るこの小原台での生活に、いま正に歩み出さんとしている諸君のこれからの健闘を心より祈り、私の式辞といたします。

諸君、入校おめでとう。